

じょうぎょうじうらいせきむつうらにちようめさ  
んばんちやぐら

## 上行寺裏遺跡(瀬戸 14 番地やぐら群)

(金沢区No.40遺跡)

調査期  
間 20080417～20080526

整理期  
間 20080527～20081217

所在地 横浜市金沢区瀬戸  
4249-1,4249-32

時 代 中・近世



## 概要

本遺跡は、神奈川県横浜治水事務所による、平成20年度金沢八景南地区急傾斜地崩壊対策工事に伴って調査されました。

本やぐら群は上行寺裏遺跡の範囲に含まれていて、上行寺裏遺跡は京浜急行電鉄金沢八景駅の西側にある丘陵一帯がその範囲になっています。本やぐら群の発掘調査は平成17年度から断続的に行われ、合計17基のやぐらが調査されています。今年度は金沢八景駅から西へおよそ150mの地点にある18号やぐらとそれに隣接する1号横井戸の調査を行いました。

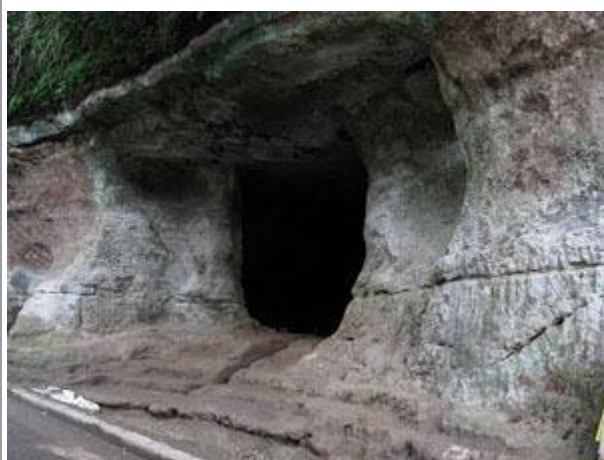
18号やぐらの内部を調査した結果、玄室以外に2基の副室が掘り込まれていることが分かりました。副室は玄室の左右両側壁に1基ずつあり、どちらも玄室の床面を改変して掘り込まれていたことから、18号やぐらよりも後の時代に造営されたと考えられます。

1号横井戸は18号やぐらの南東の位置にあります。遺物は出ませんでした。その形状から近世頃に掘り込まれたと推測されます。

18号やぐら内からは13世紀～19世紀にかけての幅広い時期の遺物が出土しました。それらの中には中世まで遡る可能性がある鬼瓦の破片等が含まれていて、本やぐら群のある辺りに中世にあったとされる能仁寺との関連性が注目されます。



▲遺跡遠景



▲18号やぐら



▲1号横井戸